

7 / 11

県高校野球独自大会開催 石岡第一高校・石岡商業高校が奮闘



石商野球部の3年生



石商キャプテンの金田君



石一キャプテンの古屋君



石一の練習風景

新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった夏の甲子園の代替大会として『夏季茨城県高等学校野球大会』が7月11日～8月5日に開催されました。

市内からは、石岡商業高校（四校連合チーム）と石岡第一高校が出場。

試合前、各校キャプテンに意気込みを伺いました。

石岡商業（以下、石商）キャプテンで連合チームでも主将を務める金田君（3年生）は「力を入れて

きたバッティングでチームに貢献したい」と意気込みを語ってくれました。今の3年生4人は、先輩が居ない環境の中で、力を合わせ野球に打ち込んできました。3年生の宮田君、川尻君、前島君も試合に向け、気持ちを一つに勝利を目指したいと熱く語ってくれました。

石岡一高（以下、石一）キャプテンの古屋健太郎君（3年生）は「甲子園が中止になったと聞いたときは頭が真っ白になった」というものの、その後気持ちを切り替えて、独自大会に向け「野球ができることに感謝し、幸せを噛みしめてやりたい」と力強く話してくれました。

石商を含む四校連合チームは、一回戦で土浦第二高校と対戦し、惜敗。石一は一回戦で麻生高校、二回戦で日立商業高校に快勝したものの3回戦で水城高校に0-2で惜しくも敗れました。

しかし、どんな状況でも前を向き闘う球児たちのひたむきな姿勢は、私たちに勇気と希望を与えてくれました。3年生の皆さん、お疲れ様でした。今後の活躍も期待しています。

7 / 13

故小林恒岳さんの作品「残照」 妻で詩人の裕杏子さんが寄贈



「残照」の前であいさつをする妻・裕杏子さん

石岡市出身で、石岡の様々な風景を描き続け、3年前に亡くなった日本画家・小林恒岳さんの作品「残照」を、妻で詩人の裕杏子さんが、市に寄贈されました。

裕さんは「この作品は夫の晩年の作品で、私も思い入れが深い。支所に飾ってもらえて嬉しい。本人も喜んでいるでしょう」と話されました。

「残照」は八郷総合支所1階「郷の風」前の通路に展示しています。

7 / 1

大塚製薬株式会社と健康増進に関する包括連携協定を締結



市は、昨年開催されたいきいき茨城ゆめ国体のパートナー企業である大塚製薬株式会社と、健康増進に関する包括連携協定を締結しました。

この協定の締結により、市民の体力向上と健康増進・スポーツの振興と指導者の育成・食育などの分野で、相互に連携・協力しながら、地域社会の活性化と市民の安心安全な生活に向けた事業を進めていきます。

(写真左から) 児島教育長、谷島市長、平内秀司大塚製薬(株)大宮支店長、大野高裕大塚製薬(株)大宮支店水戸出張所所長

7 / 6

水戸ヤクルト販売株式会社 手作りマスクとヤクルトを寄贈



市内に事業所がある水戸ヤクルト販売株式会社が市へ、手作りマスク 150 枚とヤクルト 3,600 本を寄贈されました。

布製の手作りマスクは市内在住者をはじめとする水戸ヤクルト(株)の顧客の皆さんが製作されたもの。マスクは妊婦さんへ、ヤクルトは市内保育所等へ配布させていただきます。

(写真左から) 谷島市長、マスク製作者の後藤正子さん、鶴田由美子石岡センターマネージャー、内藤学代表取締役社長

7 / 28

「笑点」でおなじみの山田たかおさん 手作りマスク 100 枚を寄贈



山田たかおさんが、自身が副会長を務める青年芸術家協会(大島信久会長)の会員3名とともに市役所を訪れ、手作りマスク 100 枚を寄贈されました。和柄が素敵なマスクは、同協会所属の芸人さんたちが製作。

山田さんは、度々訪れている石岡市のためになにかしたい、と寄贈を決意。いただいたマスクは、市内の高齢者施設に配布予定です。(写真左から) メイミさん・仙若さん・山田たかおさん・谷島市長・瞳ナナさん